

令和2年度 学校経営方針（保護者・地域対象）

人が育つ学校づくりをめざして

－学びがい、働きがいのある学校－

杉並区立高井戸第二小学校

校長 前田佐和子

I 学校経営の基本理念

新型コロナウイルス感染症との闘いで、学校にも日々激震が走っています。こんな時こそ、目先のあふれる情報に流されることなく「子どもたちにとって、どうすることが一番いいのか」をじっくり考え、確かな道を切り開いていきたいと考えています。まさに今、学校力が問われています。

昨年まで教職員一丸となって日々、よりよい学校作りを目指して知恵を絞り工夫を重ね、学校経営に取り組んできました。校長一人では思いつかないようなよいアイデアを、教職員がそれぞれの立場で一生懸命考え、労力を惜しまず取り組んでくれたこと、そしてそのことが、目に見える学校・児童の姿として表れてきたこと、本当にありがたく思います。

向上心にあふれ、納得できることなら変化をいとわず、機動力があり、創意工夫にあふれ、そして何より助け合うチームワーク抜群の教職員集団であることが、私たち高二小の誇りです。人事異動があり、新たなメンバーを迎え、さらに組織力を高めていきたいと考えています。

さて、高二小の教員の良いところはたくさんありますが、その一番はなんといっても、授業力向上に向ける熱い情熱と高い意欲です。高二の校内研、研究協議会は実に楽しいのです。より良い授業にするにはどうするか、自分ならどうするかを真剣に考える研究協議を今後も続けていきたいと考えます。

令和2年度は、感染予防の観点から、多くの学校行事が中止や延期、縮小を余儀なくされることはすでに明らかです。行事があまりないということは、授業がじっくりとできるということ。こんな時こそ、児童にとって学びがいのある授業を1時間1時間積み上げていくことが、学校の責務です。教員の授業力向上を目指す1年としていきます。

杉並区教育委員会 教育課題研究指定校としての2年目、新学習指導要領のねらいを具現化する真の「学びの構造転換」を目指し、校内研究を進めていきます。

もちろん、教員だけではありません。学校は、多くの職の総合力で成り立っています。

それぞれの職で、その専門職としての力を存分に発揮してよりよい学校を目指します。

目指す学校経営の基本理念は、「学校は、人が育つところ」であることに変わりはありません。高井戸第二小学校の子どもも大人も一人一人が、よりよく成長を遂げる場にしていきたいと考えます。学びがい、働きがい、応援しがいのある学校を目指します。

《学びがいのある学校》

学校は子どもたちの健全育成のために存在しています。子ども自身がかけがえのない存在であることを自覚し、自尊感情や他者への思いやりをはぐくみながら、明日への夢が実を結ぶよう日々、磨き合う「学びがいのある学校」となるよう努力します。

一人一人が自己の成長を感じつつ、学校で学ぶことに喜びを見出しながら毎日楽しく登校し、今日も頑張ることができた自分に誇りを感じながら家路につく。そんな毎日を地道に積み重ねていく教育活動を実践します。それが子どもにとって「学びがいのある学校」です。

めざす児童像は「昨日より今日、今日より明日輝く子ども」です。

子どもたちが自ら具体的なめあてをもって、日々の学校生活を送れるよう、授業に、生活指導に取り組んでいきます。

児童像に迫るために、以下のことを大切にしていきたいと考えます。

- ・ 自分の成長が実感できること
「できなかったことができた」「昨日より少しわかってきた」
- ・ 最後までやりとげること
「むずかしかったけどやっとできた。うれしい」「次は何に挑戦しようか」
- ・ 今日学んだことがしっかり身についていること
「集中してがんばった」「家で復習してみよう」
- ・ 明日が待ち遠しいこと
「明日は〇〇に挑戦しよう」「早く〇〇がやりたい」
- ・ 基本的な生活習慣が身についていること
「朝ご飯をしっかりと食べた」「ゲームやテレビより友達と外で遊ぶことが好き」
「明日の準備は完璧だ」

《働きのある学校》

「人が育つ」とは、子どもだけに当てはまることではありません。子どもにとって「学びがいのある学校」にするためには、教職員一人一人が教育のプロとしての責任と自覚をもち、自らも教師として、職員としてよりよく職務を果たそうとする姿勢が大変重要であると考えます。

教職員一人一人が、それぞれの立場、職責において「昨日よりも今日、よりよく仕事（授業）ができた」と職業人としての自己の成長を感じつつ、充実感を味わい、高井戸第二小の一員であることが誇れるような「働きのある学校」を目指します。

教職員一人一人が「昨日より今日、今日より明日、輝く人」となることが大切であると考えて

います。昨年度も、放課後や長期休業中の隙間時間を使って、多くのミニ研修が開かれました。春季休業中には、国語科授業研修と4月の学級開きの準備として学級経営ミニ研修が開かれました。日常業務の様々な分野で、常にOJTを意識し、高井戸第二小の子どもたちのために、自己研鑽に励んでいます。この良き伝統は、令和2年度もしっかりと継承していきます。

そして、校務分掌への取組、担当する校務分掌では、昨年度をそのままなぞるのではなく、自分で考え精一杯の工夫をして提案することを今後も大切にしていきます。

「よりよく」の精神で一人一人がリーダーシップを発揮し、組織の一員として学校経営に参画することが、授業力(仕事力)を伸ばし、「昨日より今日、今日より明日輝く人」になることにつながると考えます。

《応援しがいのある学校》

本校は、地域の宝である子供たちの成長に責任をもっています。一人一人の人権尊重と社会貢献の精神をはぐくみ、基礎的・基本的な学力の向上を図って、その個性と想像力を伸ばし、広く国際社会でたくましく生きる力を身につけさせることは、学校の責務です。

しかし、この目標は一人の力で達成できるものではありません。高井戸第二小の教職員が一丸となって、互いのよさを生かしながら全力で取り組むこと、さらに保護者や地域の皆様の力をお借りし、多くの大人の力を組織的に結集して、子どもたち一人一人を温かく見守り育てていく学校づくりを推進していきます。

学校が、日々、子どものために最善を尽くし組織として取り組むことが、保護者や地域の皆様のさらなる信頼と多大な協力をいただくことにつながると確信し、子ども一人一人の成長を喜び合える学校・保護者・地域の関係を広げていきたいと考えています。

II 目指す児童像

教育目標

本校では、「生きる力」の育成を目指し、教育目標を設定しています。

- たくましい子
- ◎ かしこい子
- にこやかな子

令和元年度、「かしこい子」に重点を置き、確かな学力の向上に取り組んできました。

杉並区の特定期間調査の結果を見ると、本校児童の学力は国語・算数ともにR5層とR4層は少しずつ増加している傾向があり、全体としては国・都はもとより区平均を上回る結果となっています。しかし、学び残しのあるR1層の減少は頭打ちで、R2層・R3層の学力向上は、令和2年度も本校の課題です。さらに細かく分析していくと、とくに国語科にお

いて、思考力・判断力・表現力がしっかり身につけているとは言えない調査結果と実態があります。

学力が、将来の児童の幸せの下支えとなることを考える」と確かな学力の定着は本校の大きな課題です。令和2年度は、国語科を校内研究教科とし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善を図って、変化の激しい時代、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を、一人一人の児童に着実につけていくことを目指します。

また、令和2年度は120周年の年。感染防止対策は徹底しつつも、子どもたちに母校を愛する気持ちを育む取組を工夫していきます。

Ⅲ 学校経営の基本方針

1 人権尊重の精神と豊かな心の育成

穏やかに楽しい授業ができる高二小を支えているのは、実はこの柱だと考えています。命の大切さを知っていること、自分を大切にすること、自分と同じように他者を大切にすること、一人一人がかけがえのない存在として尊重されること、これらのことを一人一人にしっかりと根付かせたいと考えています。いじめや体罰、差別や偏見のない人権尊重の精神に満ち、豊かな心が育っていく学校・学級づくりを目指します。

そのために、以下の点に取り組んでいきます。

(1) いじめ・不登校の根絶と生活指導の充実

子供の立場に立って愛情深く、成長のために必要な指導していきます。「先生が認めてくれた、大切にしてくれた」と子供が実感できる学級経営、学校経営が問題解決の基本であると考えます。自己肯定感の高い子どもを育てるには、その子のよさをまず、認め、ほめることが大切です。問題行動の指導や不登校傾向の解決には、担任だけでなく組織的に取り組む学校づくりに力を注いでいきたいと考えています。誰が担任をしても、学校全体で知恵を出し合い、組織的に解決、改善していくしくみをさらに強化していきます。

① 特別支援夕会・生活指導夕会と特別支援全体会

問題傾向や配慮が必要なケースについては、毎週月・金の夕会の冒頭に情報交換を行います。5月・2月の特別支援全体会で全教職員が情報を共有し、共通理解と同一歩調で指導に当たります。

② 定例校内委員会・臨時校内委員会等教育相談の充実と関係機関との連携

定例校内委員会（校長、副校長、特別支援コーディネーター、3主幹、養護教諭、特別支援教室専門員）を月一回確実に実施します。また、緊急性のある課題を抱えた子どもの学級担任も加わっての臨時校内委員会も開き、具体的な対策を講じていきます。ケースによっては、SSWや子ども家庭支援センターや児童相談所、心理相談員、近隣中学校などとの連携をとりつつ、多方面からの働きかけにより問題解決を図ります。

③ 「すばる」を提出している児童について

4月中旬に保護者との面談をすることは必須です。保護者は、「こういうことに配慮してほしい」という思いから提出してくださっています。保護者との連携を大切に、気軽に相談し合える良い関係を作り、児童への適切な配慮と指導・対応ができるようにします。

(2) 明るい挨拶の行き交う学校に

今年度も昨年度に引き続き、代表委員会の取組に加え、縦割り活動でも、挨拶運動に取り組みます。笑顔いっぱいの挨拶は、温かい人間関係をはぐくむ基本と考え、引き続き、高井戸第二小学校を明るい挨拶のあふれる学校にする取組を行っていきます。子どもたちが挨拶するようになるには、まず、大人が率先して笑顔の挨拶をしていきます。門が二つ、昇降口も四つある広い学校ですが、看護当番等のしくみを活用して、今後も子どもたちを笑顔で迎えることを大切にしていきます。

(3) 豊かな心を育成するための道徳教育の充実

道徳教育は全教育課程で実施していくものですが、その中で、週1回の道徳の時間は学級指導とは異なり、意図的計画的に道徳的心情をはぐくんでいく時間です。研修の成果を生かし、学級指導と道徳授業を混同することなく、子どもの心を意図的計画的にたがやしていきます。長期休業中には、区の教育指導教員（道徳）を講師として、校内研修を行います。各学年で略案を準備し、研修を深めていきます。

保護者対象の教育調査では、特別支援教育についての発信が不十分であるという指摘を例年受けています。3月の土曜授業、道徳授業地区公開講座では、講師をお呼びして、保護者対象の講演会を実施し、保護者・地域とともに考える機会としていきます。

(4) 生命の大切さを実感できる環境の整備

高井戸第二小学校には、広い校地の中に十分な広さの充実した教材園があり、教材等の栽培計画がしっかり計画されています。ビオトープの周囲の草取りに主事や環境委員会の教師、児童が大変頑張ってくれました。子どもたちが身近に生命にふれる環境を整え、命の大切さを実感できるよう、植物を育てる体験的な活動や動植物に触れる機会を大切にしていきます。学校支援本部の環境サポーターの皆様の応援を今後もいただきつつ、委員会だけでなく、いろいろな学年の教材園・ビオトープの活用を進めていきます。

2 確かな学力と体力の定着

(1) 基本的な生活習慣・学習規律の徹底 ～「たかにハンドブック」を活用して～

子どもたちが楽しく学び、確かな学力を身につける前提として、学習用具の準備を整える、チャイムで着席する、話をしっかり聞く、発言のルールを守るなどの学習規律がしっかり定着していることが大切です。学習規律に関し、学級や学年でばらつきがあっては、子どもは混乱し、保護者は不信感をもつことにつながります。また、今後、若手教員

の割合が増えていく現状にあつては、当たり前のことを当たり前、全校が同一歩調で取り組むことは、学級の荒れを未然防止するために大変有効であると考えています。

「たかにハンドブック」をもとに、若手教員もベテラン教員もその他の職員も、みな同じ姿勢で子どもの指導に当たっていく仕組みを確立していきます。令和2年度こそ、保護者会に配布できることを目指しています。

(2) 読書活動の推進

しっかりした学校図書館経営計画・図書館全体計画があり、学校司書が毎日図書室にいてくださる。広く明るい図書室に、新しい本がきれいにディスプレイされている。保護者ボランティアによる読み聞かせや学級文庫の選本など充実した読書活動が実施できていることは本校のよき伝統です。読書は子どもの心を耕し、確かな学力の基盤となります。昨年以上に、全校体制で読書活動の推進に取り組んでいきます。

平成30年度に「たかにおすすめの本」が選本されるとともに、各学年の読書目標を設定し、年間を通して子どもたちの読書に対する意欲を引き出す取組を始めました。令和元年度は、表彰を励みにしてくれる子どもも増え、ほとんど全員が目標を達成した学年もあります。令和2年度は、目標冊数(ページ数)を見直し、取組をさらに進めていきたいと考えています。読書旬間の取組もさらに工夫していきます。

(3) 学習習慣の確立(家庭学習の習慣の徹底)

「生きる力」をはぐくむことを重視する理念は新しい学習指導要領にも生きています。日々の授業で学んだ、つまずきやすい内容を繰り返し反復して学ぶことは、確かな学力をはぐくむために重要です。小学校低・中学年までに学習習慣を確立することも求められています。今後も家庭と協力し、着実に身に付けさせていきます。

(4) 体力向上への取組

29・30年度は子どもの体力が必ずしも高くない実態を受け、体力向上に向けた取組の推進をしてきた結果、少しずつですが、確かな手ごたえが数字に表れています。

せっかく2年間取り組んだことが、高二小にしっかり根付くよう、作成した体育科の年間計画に沿って、今後も体育の授業を実施します。昨年度は、1年生が「流星ゲーム」に取り組んでくれました。2年生がゲームのコツを教えてくれたことが大変良かったです。

また、運動の日常化には今後も取り組んでいきます。校庭での遊びも豊かにしていきます。全校で取り組む長なわ、短なわ、マラソン等の取組もさらに工夫していきます。

例年実施している「大切なすいみん講演会」を6月9日に2・4年生に実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら中止となりました。

基本的な生活習慣の確立は、確かな体力の基盤となるものと考え、保護者と連携して取り組んでいきます。

(5) 小中一貫教育の推進

子どもは保護者・地域の宝です。自分のまちに誇りを持ち、未来を担うしっかりした「生きる力」をもった人間を9年間の義務教育で育てること、それが地域に根差す公立学校である高井戸第二小学校の使命です。西宮中学校を核にして本校と松庵小学校で、目指す人間像を共有し、小中一貫教育を進めていくことを推進していきます。Q-Uにはそれぞれの学校で引き続き取り組みます。

「学びをつなげ、切れ目のない教育を進める」ことを目標に三校の相互理解を深め、協力協働して地域の宝である子どもたちの育成をするため、昨年度までの課題を十分受け止め、進めていきたいと考えています。

3 教師の授業力の向上

新型コロナウイルス対策により、多くの行事が中止せざるを得ない今年、「教師は授業で勝負する。」ことに注力し、互いの授業力を磨きあう場を校内で充実させていきたいと考えています。教師の授業力向上は個々の教員の自覚のみに頼っては限界があります。本校の課題である若手教員の育成を契機とし、学校全体の授業力向上と、互いに学びあい高めあう職場の活性化を目指します。放課後のミニ研修実施が多種多様に根付いて、いろいろな教科・領域に広まってきました。今後も続けていきます。

また、日々の授業を充実させるために教材研究や準備を十分に行い、意図的計画的な教育課程の実施をしていきます。そのために週の指導計画（週案）等の作成が大変重要です。今年度から、スクールサポートスタッフが週2日配置されました。あらかじめ、計画的に教材を準備し、学習プリント等の印刷等に力を発揮していただきます。

(1) 週の指導計画の記入と提出

必ず前の週の金曜日には、学年会をもち、吟味して作成します。

- ・ねらい、主な授業のながれ、中心活動、留意点、指導記録など適宜記入。
- ・安全面の配慮は必須記入項目です。
- ・指導に役立つ週案を作成し、授業の充実のため活用します。

(2) 授業改善推進プランの活用

国や都・区の学力テストの結果分析を生かし、授業改善推進プランは各自が定期的に見直します。7月28日にはQ-U研修会、31日には学力向上校内委員会が予定されています。夏季休業中に授業改善プランを作成し、具体的な授業改善につながる取組にします。

(3) 同僚教員から学ぶ

互いの授業を見合って学ぶことは、大変有効な方法です。専門教科等の授業やこの時間をぜひ見てほしいという場合、積極的に校内で公開していきます。

自己申告の授業観察は、1学期は国語または算数（専科教員は担当教科）2学期は、専門（得意）教科とします。略案を準備し、全員に配布し、互いに授業を見合う機会とします。

年3本以上、他の教員の授業を参観し、よさを学びあう機会としていきます。長期休業中や隙間時間のミニ研修会、今年も盛大に実施していきます。

4 開かれた学校づくり（健康・安全・安心）の推進

（1）保護者や地域対象に、年度当初に学校経営方針を説明し、周知するとともに年度末には教育活動の報告を行って、1年間の教育活動の成果と課題を説明し、学校に対する理解と協力を得ていきたいと考えています。学校評価の結果に基づいた改善の具体的な方針を明確に示し、保護者・地域関係者・市民の学校に対する理解を深め、さらなる充実にむけて協力が得られるようにします。

（2）コミュニティスクールとして、今後も保護者や学校支援本部、町会など地域の皆様の力を借り、地域運営学校の利点を生かした学校経営を強力に推進していきます。

5 服務の厳正

私たち高井戸第二小学校の教職員は、自己の仕事に誇りと責任、熱意と喜びをもって全組織として一丸となり、目標に向かって努力する集団でありたいと考えています。子どもの前で恥じるところのない社会的に尊敬され信頼される教職員であるために、当たり前のことが当たり前でできることを大切にしていきます。服務については、自覚をもち、厳正に取り組んでいきます。